

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

現代教育課題総合コース  
／田村 和之

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

## 1. 目標・計画

豊かな教養と教育実践力を持つ教員を養成するためには、学校現場においてどのような状況でも物事を分析し、実践へと応用できる力を育てる必要がある。そのためには基礎知識をしっかりと抑えた上で、いかに複合的な要素を取り入れて学校現場の授業開発を行える教員を養成できるかが重要であり、そのために一つのテーマを様々な視点から考察した授業を構成していきたい。

## 2. 点検・評価

後期では環境教育特論Ⅰ(教材開発)や環境教育特論Ⅲ(実践)の授業では学生に教材開発や実際に学生が考えた教材を使った授業を考案し、どのような教材が学校現場で使えるか、またどのような授業が可能であり、児童・生徒の意欲をかきたてるかを考えさせることを行った。様々な意見や教材の使用方法が出て、とても活発な授業となり、年度目標とも沿った授業が行えたと考える。

また、総合演習ではランダムで5人～6人の学生をグループとし、テーマを与えて共同作業をさせ、短期間で一つの結果を出させるという授業を行った。これは将来、学校現場や社会に出て行った時、初めて知り合った人どのように関係を感じていけるか、また、知らない人同士が集まったときにどのように共同作業を行えば良いかを考えさせるのにとっても良い授業となったと考える。

来年度は本年度の経験を活かし、学生一人ひとりにもう少しはっきりとした目的意識と考えを持たせるような授業内容を考えていきたい。

## II. 分野別

## II-1. 教育・学生生活支援

## 1. 目標・計画

1. 学生とのコミュニケーションを円滑にするため、メールやオフィスアワーを積極に取り入れる。
2. 授業ではディスカッションを取り入れ、学生主体の授業になるように工夫していく。
3. 学生の視野を広げ、授業実践力の向上をはかるため、様々な立場・視点から一つのテーマに取り組む授業を工夫する。
4. 学生の意欲を引き出す進路指導・研究指導を行っていきたい。

## 2. 点検・評価

1、メールやウェブを通して学生に情報を公開し、またオフィスアワーは基本的に常時オープンとし、学生が来やすい時間に来れるようにした。また予定外で来た学生にも親切に対応し、相談したり、質問に答えることができた。

2、後期では学生主体の授業を行い、学生同士で様々な考えを出してもらい、それについて全員で質疑応答を行う授業ができ、目標を達成することができた。

3、教師からの一方的な講義だけでなく、学生同士の意見を尊重し、また一風変わった視点からの意見も同じように取り扱うことによって学生の視点も広がったと考える。

4、指導学生は本年1年間で研究テーマについて色々迷っていたが、現在では次第にその方向性ははっきりとし始めており、来年度、実際に執筆に入れる事前準備が着々と完了していると思われる。

## II-2. 研究

### 1. 目標・計画

1. 本年度より環境論を研究分野に追加したため、新たに環境、または環境教育系の学会に加入して、知見を広げ、新たな研究のための基盤を構築していきたい。

2. 今まで研究してきた天文分野においても論文を書き続け、アメリカの共同研究者と協力して新たな研究を構想していきたい。

## 2. 点検・評価

7月の環境教育学会を始め、昨年11月には高等教育におけるESD(持続可能な社会づくりのための環境教育)フォーラム、さらに1月には環境教育ミーティングに参加し、他大学の教員やNPO法人、企業の方々とは様々な意見交換が行え、また将来に向けた様々な人脈の構成も着々と広がって来た。

現在も天文学分野においては共同で論文の執筆が進んでおり、また1月からは新しい研究プロジェクトの立ち上げにも参加している。

## II-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

1. 大学運営に関して積極的に情報を収集し、大学運営参加のための基盤を構築する。

2. 現代教育課題総合コース内において割り当てられた役職をしっかりと遂行する。

## 2. 点検・評価

図書運営委員会として大学運営に参加。

前期、後期を通して可能な限り他の先生の代理として委員会にも出席した。

また、コース内ではコース会議で書記として記録を取ったり、

その他コースでの大学院入試やセンター試験など、大学運営に関する業務に係る仕事をこなして来た。

来年度も一生懸命頑張って大学の運営に参加していきたい。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

1. 附属学校・社会との連携、国際交流等のシステムを学び、将来の協力のための基盤設計を始める。
2. 附属学校、そして鳴門市、徳島市を中心とした小中学校における教育支援活動に積極的に参加する。

### 2. 点検・評価

6月に行われた附属小学校、附属中学校に行われた研究発表会に参加。  
その後附属小学校において英語活動の時間に参加。  
後期には小学6年生の理科の授業「月の満ち欠け」において長野教諭と一緒に授業を行った。  
また、11月には小学3年・4年の英語活動の時間にも参加して、附属小学校との連携が予想以上に強化されたと思われる。  
また、7、8月には鳴門市環境ワークショップにも参加し、地域との連携も果たせた。  
来年度においても附属小学校や地域とより連携を取って様々な活動を行っていきたい。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)